

夏の子どもの感染症にご注意：ヘルパンギーナ、手足口病

一般に、「夏かぜ」と呼ばれるなかには、この時期に流行するウイルス感染症が潜んでいます。このウイルスには数種類あり、梅雨時期から夏にかけて感染者が増加します。代表的な病気である、ヘルパンギーナと手足口病について紹介します。

ヘルパンギーナ (今年、西日本で大流行しています)

発熱とのどにできる水ぶくれ(水疱)が特徴で、しばらくすると水疱は破れて潰瘍(かいよう)になります。のどの痛みが強く、水分をとりづらいために脱水を起こしてしまうことがあります。発熱は2~4日程度で解熱しその後発疹も消失します。

(潜伏期間) 2~4日 **(原因ウイルス)** コクサッキーA群ウイルス

(感染経路) 飛まつ感染か、患者便中のウイルスによる経口感染です。

(奈良県の患者発生状況)

6月(23週:6/2-8)以降、確実に患者は増加しています。そのスピードは毎週倍増しています。

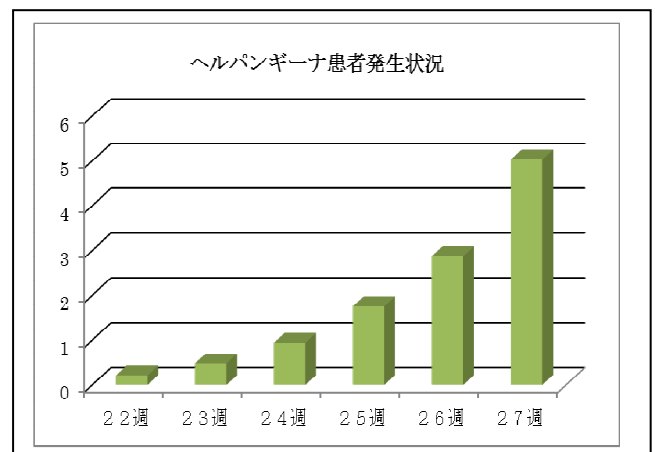
県全体では6.21と警報レベル(6.0<)に達しています。特に奈良市保健所管内では11.29と大幅に警報レベルを上回る状況です。

(*警報レベル=大きな流行)

患者の多くは0歳から6歳で、最多は1歳から3歳の幼児で全体の65%を占めています。例年の流行パターンから、ピークは27週から30週(7月末)と予想しています。

(予防)

外から帰った後、食事の前、トイレの後などに手洗いを行うことが最も大切です。治った後も3~4週間は便にウイルスが排泄されるため、幼稚園、保育園、学校など集団生活ではタオルを共用することは避けましょう。



手足口病 (今年の患者は少ないようです)

手のひら、足の裏や口の中に小さな発疹や水疱ができかゆみを伴います。発疹は2~3日で褐色の斑点となりその後消えてしまいます。口の中の水疱は破れると痛みがあります。

(潜伏期間) 3~4日 **(原因ウイルス)** コクサッキーA群ウイルス、エンテロウイルス71

(感染経路) 飛まつ感染か、患者便中のウイルスによる経口感染です。

(奈良県の患者発生状況)

昨年度は本県を含めた全国的な流行がありましたが、今年の患者数は少なく、同じ27週(6/30-7/6)で昨年と今年を比較すると4.47、0.74と大きな違いが見られます。要因の一つは昨年感染したために抗体を獲得したためと考えています。